

# 農地・水・環境保全向上対策 活動組織の取り組みの評価(案)

1

## 成果の分析と課題への対応編

福島県農地・水・環境保全向上対策第三者委員会

## 活動組織の取り組みの成果編目次

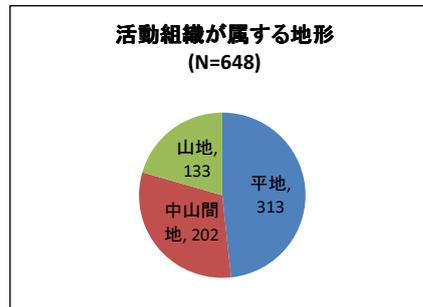
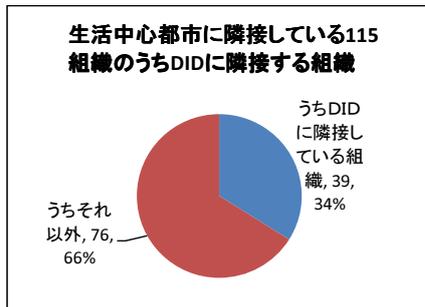
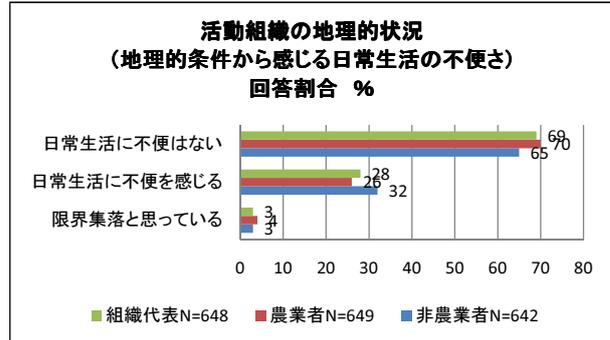
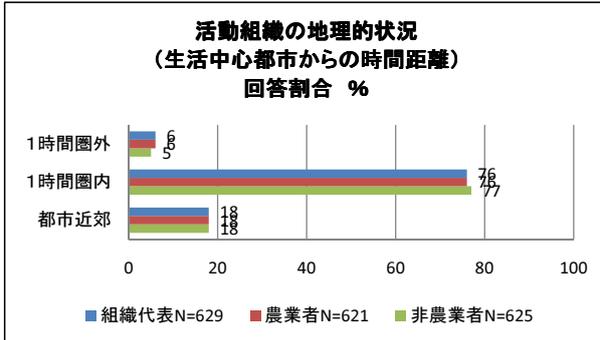
- I 基礎分析
- II 課題点の抽出と分析
- III 課題の再整理と今後の対応方針

## I 基礎分析

### (1) 活動が展開されている地域の状況

#### ① 地理的・社会的条件

本対策に取り組んでいる活動組織は、比較的平地に多く属し、生活中心都市へ隣接する組織が18%ある。うち、人口密集地(DID)に隣接する組織は全体の5%程度であるが、これらは本分析を行うにあたり特異性が見られるためここに明示する。



#### <参考>

本評価にあたり、データとして使用している各アンケートにおいて、回答者の主観の入る設問の信憑性を検証するため、時間距離等について、3者に同じ質問をしたが、ほぼ一致していることが確認できた。

3

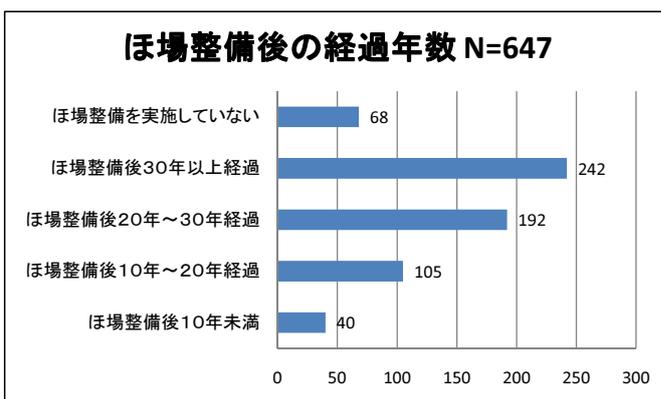
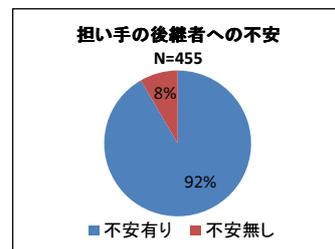
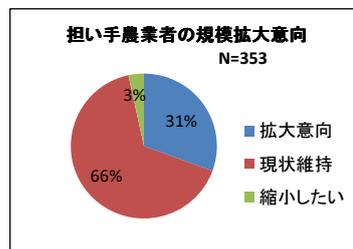
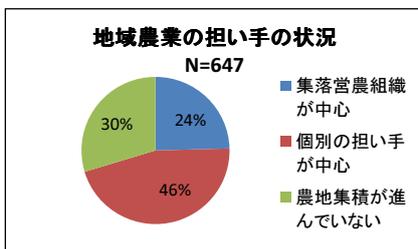
## I 基礎分析

### (1) 活動が展開されている地域の状況

#### ② 活動組織内における「地域農業の担い手」や「生産基盤の整備状況」

本対策に取り組んでいる活動組織では、県内全域と比して、地域農業の担い手が得られている地域が多く、特に集落営農が営まれている地域が多いことが特徴。

しかしながら、担い手農業者からの回答では、規模拡大意向のある農業者は30%程度であり、これは後継者への不安が90%近くあることもその一因となっていると考えられる



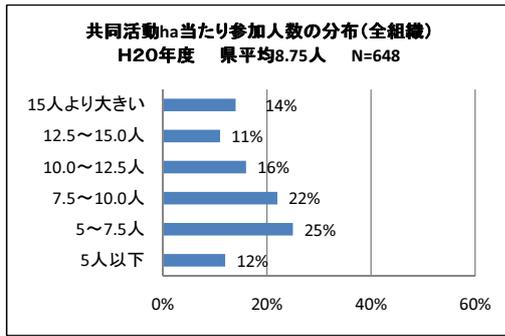
生産基盤の整備状況は、ほ場整備実施済みの組織が全体の9割程度。

しかしながら、整備後30年経過している組織が全体の1/3以上あるなど、小用排水路など生産資源が老朽化していると考えられる組織が多いことが特徴。

4

## I 基礎分析

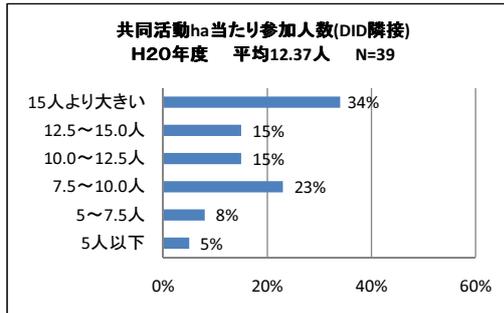
### (2) 活動参加者数の分布状況(地域条件による違い)



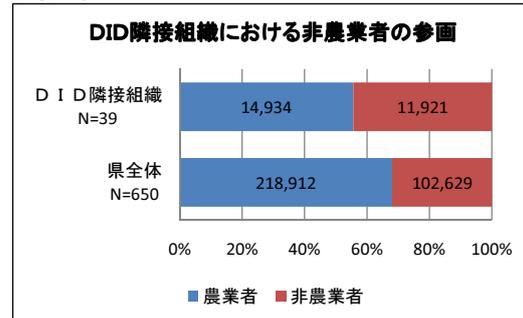
面積(ha)当たりの活動参加者数の分布を見ると、比較的広範囲になっていることから、「活動状況にばらつきが大きいのでは」との懸念がある。

また、15人/ha以上の組織数が比較的多いことから、影響があると考えられる「都市周辺組織」や「小規模面積組織」などを特出して、分析する

人口密集地(DID)周辺の組織では、参加人数は県平均より極端に大きくなる。



#### <参考データ>



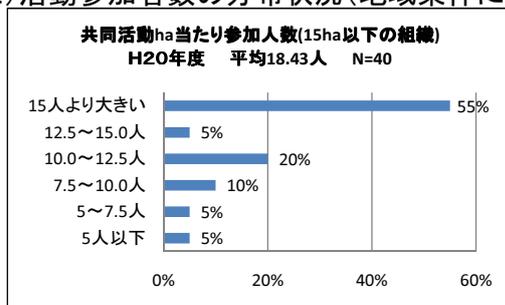
都市周辺でも、非農業者を取り込んだ活動ができていると考えられる。

都市周辺では、非農業者参画割合が大きく、左記を裏付けている。

5

## I 基礎分析

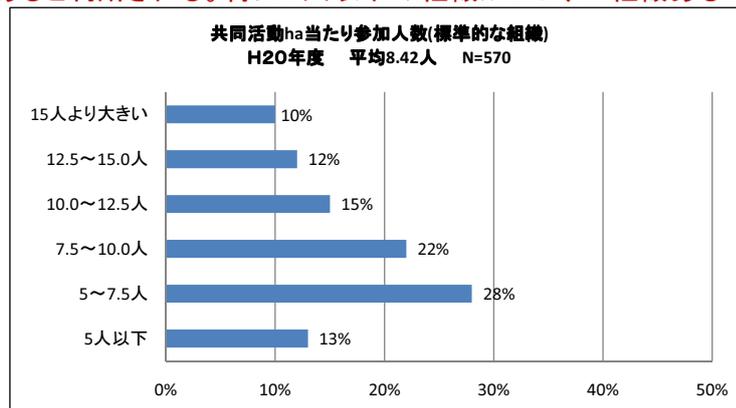
### (2) 活動参加者数の分布状況(地域条件による違い)



小規模組織(面積15ha)以下でも、活動要件は同じなので、面積当参加人数は極端に大きくなる。

山間部の小面積組織には「負担」が大きくなっているのではとの懸念。

人口密集地(DID)周辺の組織や小規模組織(面積15ha以下)の影響を除いて、ha当たり参加者数の分布をみると、それでも広範囲に分布していて、各組織の活動内容には、「ばらつき」があると判断される。特に5人以下の組織が18%、76組織あるのは課題。



6

## II 課題点の仮定と分析

「活動組織の取り組みの成果」、「基礎分析」からみえてきた下記次項を課題点と仮定し、分析を加えることにより、課題点の検証と有効な対応策を探る。

### <仮定した課題点>

(1) 活動の展開状況(参加人数)には、組織間の「ばらつき」があり、活動の充実度の低い組織が1～2割程度存在するのでは

→ 面積当たり活動参加人数などに関する分析を行う

(2) 基礎的な維持活動(草刈り、泥上げ等)の強化が、担い手農業者の作業軽減に結びついていない組織が2割程度あるのでは

→ 担い手農業者の満足度などに関する分析を行う

(3) 農村環境向活動で景観は飛躍的に向上したが、生態系保全や水質に関する向上度は、景観ほど高くはない

→ 生態系や水質の改善度などに関する分析を行う

(4) 組織内の人々の結び付きでは、「意識の共有ができている」段階まで達しているのは、現段階では組織数の3割程度と少ない。

→ 地域内の交流の状況や地域の人々の結び付きなどに関する分析を行う

(5) 組織の取り組み目的に対して、到達度が低い組織が全体の2～3割程度ある。

→ 低い組織の要因分析などを行う

## II 課題点の仮定と分析

### <仮定した課題点>

(6) 10年後交付金がない状態で活動を継続できるかといった想定に「できない」とする割合が高い活動項目がある

→ 要因や持続性を高めるにはといった観点から分析を行う

(7) 地域の将来等に関する話合いがまだ始まったばかりの段階である

→ どうすれば話合いが進むのか、内容が充実させられるのか探る

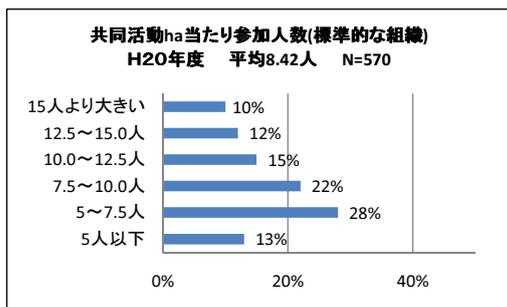
(8) 農産物の販売価格が向上しない

→ 販売価格の向上のために、どのような取組が必要か分析する

## II 課題点の抽出と分析

### (1) 活動の「ばらつき」について

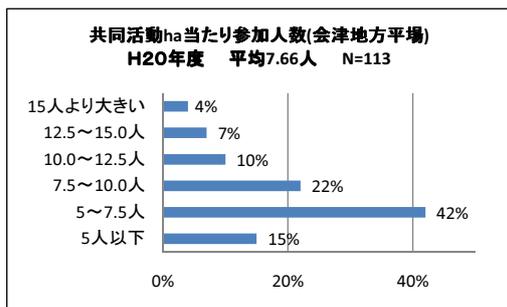
#### ① 各各当組織の活動の展開状況(参加人数)にばらつきがある(再掲)



特殊要因のある活動組織(DID隣接、小規模組織:面積15ha)を除く、面積(ha)当たり参加人数の分布を見ると、平均を2倍以上となる組織が相当数存在する一方、1/2以下の組織も一部にはあることなど、「ばらつき」が大きい。

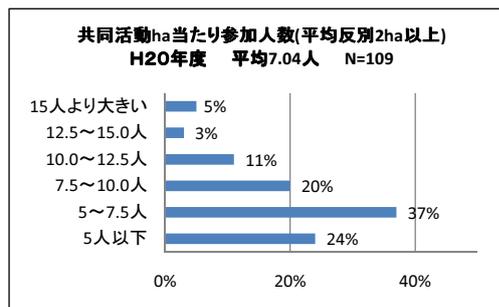
活動の充実度が低い組織があるのではとの懸念がある。

#### ② 県内各地域の地域別比較



県内各地を比較してみると、まとまって傾向に差が出るのが、会津地域の平場(会津盆地内)で、全体に比して低い。

平均反別の影響か? 要分析



平均反別が大きければ、農家数は少なく、面積当たり参加人数も少なくなることはある意味当然。

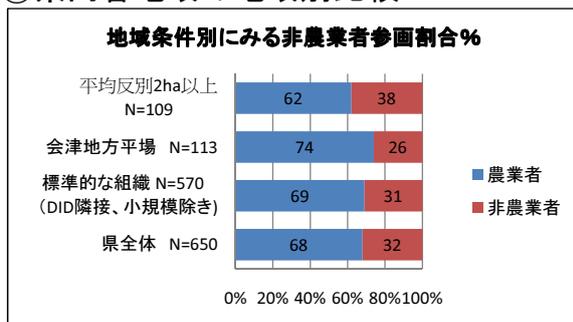
さらに分析が必要

9

## II 課題点の抽出と分析

### (1) 活動の「ばらつき」について

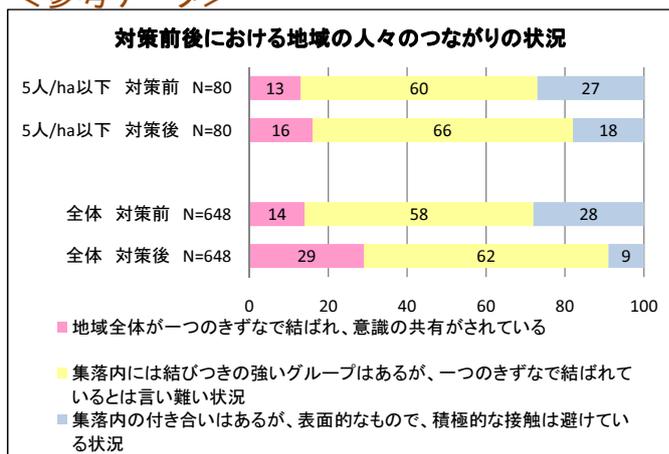
#### ② 県内各地域の地域別比較



平均反別の大きい組織では、面積当たり参加人数は少ない傾向にあったが、非農業者の参画割合を見ると県全体より高く、農業者が少なくなる分、非農業者を取り込められていると考えられる。

一方、会津地方平場地域は非農業者参画割合も低く、参加者数も少ないという結果であり、これは課題。

### <参考データ>



面積当たり参加人数5人/ha以下の80組織では、対策前後における地域の人々のつながり状況について、改善度が低い傾向が見られる

80組織の中には、平均反別が大きいため参加人数が少なくても非農業者参画割合が高いところもあるが、会津地方平場のように非農業者の参画も少ないと、集落機能活性化の効果は薄くなるどころかあると考えられる。

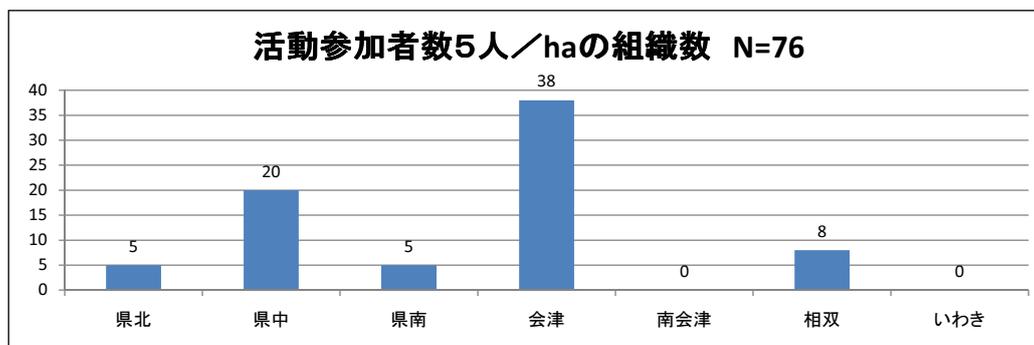
10

## II 課題点の抽出と分析

- (1) 活動の「ばらつき」について  
 ② 県内各地域の地域別比較

	5人/ha以下の組織数	5~7.5人/haの組織数	県内全数
県内 標準的組織 (DID隣接、小規模以外) N=570	76	160	570
会津地方平場の組織 N=113	17	47	113

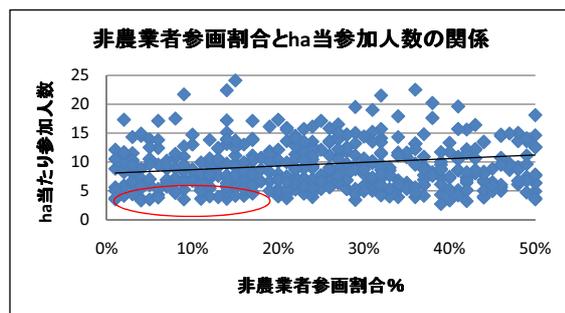
計数の再整理をすると、会津地方平場が参加人数が少ない傾向があると、これはあくまで県平均以下の組織が多いという「傾向」として捉えるべき数値。例えば5人/ha以下の参加人数の組織は、県内全域にまんべんなく散らばっている。



5人/ha以下の組織は、傾向としては、市町村当りの組織数が30を超えるような市町村に多く分布しているのが確認できた。

## II 課題点の抽出と分析

- (1) 活動の「ばらつき」について  
 ③ 単位面積当たり参加人数と非農業者参画割合の関係

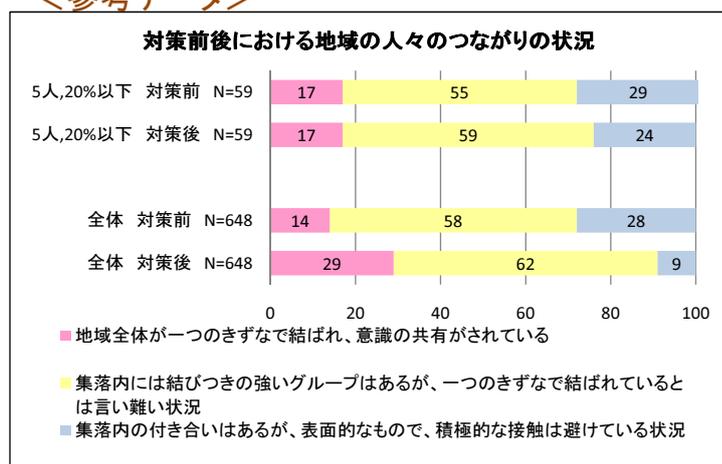


面積当たり参加人数と非農業者参画割合の関係を見ると、DID隣接や小規模面積組織などの特殊要因を除いて、かつそれぞれに大きな値を示す組織の影響を排除してみたが、明確な相関は見られない。

これは、組織における活動計画の選択状況(農業者を中心に資源保全活動に力を入れ、非農業者の参加は少ないが、活動は充実している)などによると考えられる。

双方の指標とも少ない組織が一部あることは課題

### <参考データ>



面積当たり参加人数5人/ha以下かつ非農業者参画割合20%未満の組織の59組織では、対策前後における地域の人々のつながり状況について、改善があまりみられない。

しかも、単に5人/haの組織だけより、改善が鈍い傾向が強い。

面積当たり参加5人/ha以下で非農業者参画割合2割は、活動の充実度の低い組織を探る際に一定の目安とできると考えられる。

## II 課題点の抽出と分析

### (1)活動の「ばらつき」について

#### ◆まとめ 「活動のばらつき」分析◆

・ 県内の活動組織における、単位面積当り活動参加人数は、特殊要因のある組織を除いても「ばらつき」がみられる。

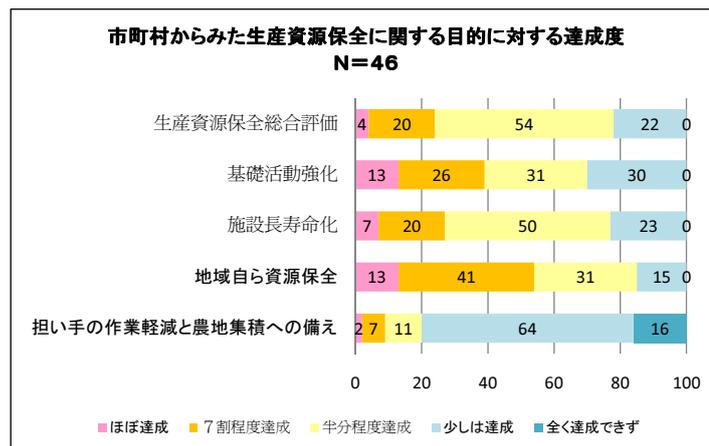
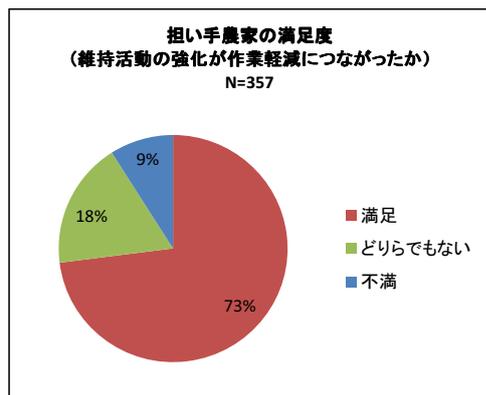
・ 活動参加者数が少ない組織、特に非農業者の参画も少ない組織では、集落機能活性化という本対策の一つの目的に対して、効果の上がり方が鈍い傾向が確認された。

・ 地区内の農家の平均反別等の要因があり一概に言えないが、5人/ha以下でかつ非農業者参画割合2割以下となっている組織が全体の1割程度存在し、これらについては、組織の条件を確認したうえで重点的に指導にあたることも活動の充実のため有効な手法と考えられる。

## II 課題点の抽出と分析

### (2) 担い手の基礎的維持管理活動強化に対する満足度

#### ① 担い手の満足度と市町村からみた達成度(再掲)



活動組織内の担い手農家からの「基礎的維持活動(草刈り、土砂上げなど)の強化が担い手農家の作業軽減になったか」の設問では、満足しているが7割以上あるものの、27%は「どちらでもない」以下となっている。

一方、各実施市町村からみた「生産資源保全管理」に関する達成度では、「担い手の作業軽減と農地集積への備え」という項目が極端に低くなっており、「農地集積への備え」という点を回答者が重視したということがあるにしても、「担い手の作業軽減」といった点にも課題はあると考えられる。

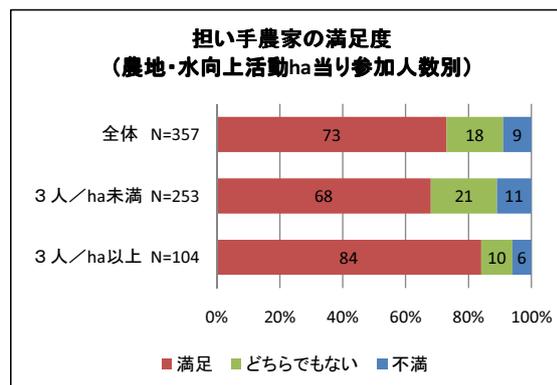
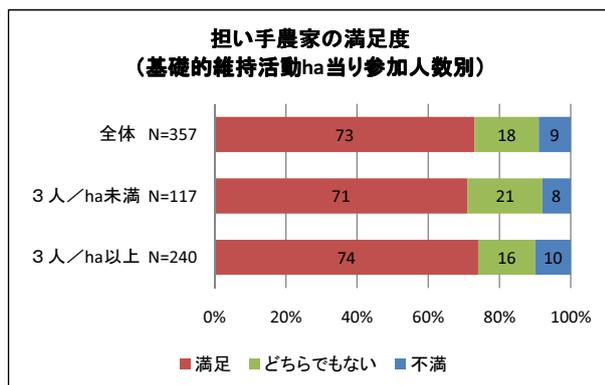
このため、分析を行い有効な対応策を探る。

15

## II 課題点の抽出と分析

### (2) 担い手の基礎的維持管理活動強化に対する満足度

#### ② 活動の展開状況(活動参加者数)との関連



基礎的な維持活動の活動参加人数別にみると、haあたり参加人数が多い組織も、少ない組織も担い手にあたる満足度には大きな変化はない。

一方、農地・水・向上活動(生産資源の長寿命化のための修繕など)の活動参加人数別にみると、明らかに本活動の参加人数が多い組織では担い手の満足度が高く、少ない組織では低くなっている。

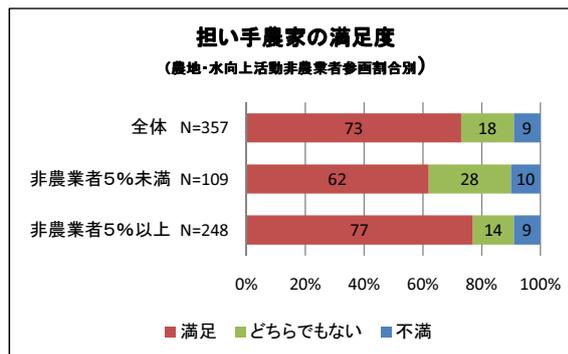
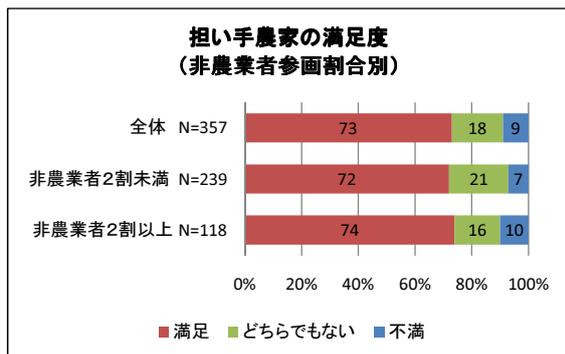
担い手農家は、活動組織に、基礎的な維持活動ばかりでなく、生産資源の修繕・保全を含めた作業を求めている姿がうかがわれる。

16

## II 課題点の抽出と分析

### (2) 担い手の基礎的維持管理活動強化に対する満足度

#### ③ 非農業者参画割合との関連



非農業者の参画割合が担い手農家の満足度に与える影響をみると、活動全体に非農業者参画割合が高くと、担い手農家の満足度にはあまり影響がない。

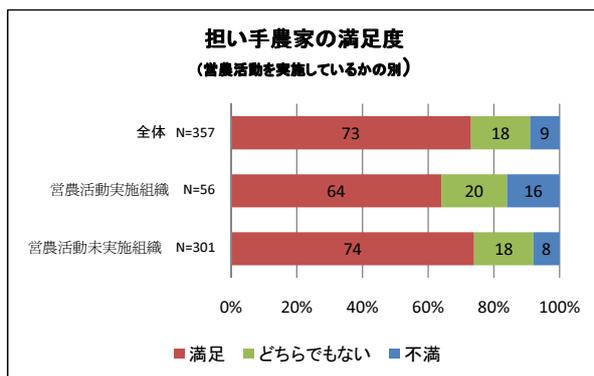
一方、前述の活動参加人数同様に、農地・水・向上活動(生産資源の長寿命化のための修繕など)の非農業者参画割合が低い組織では、満足とする回答が10ポイント程度下がっており、生産資源に修繕活動にまで非農家を取り込んでいくことが有効な手段と考えられる。

ただし、「不満だ」とする回答は、農地・水向上活動の活動参加者数や非農業者参画割合だけでは説明できておらず、さらに要因分析が必要である。

## II 課題点の抽出と分析

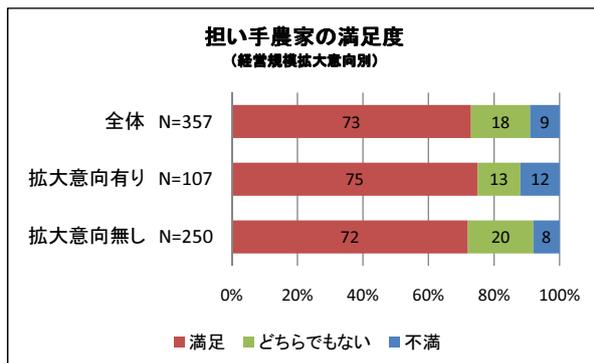
### (2) 担い手の基礎的維持管理活動強化に対する満足度

#### ③ 「不満だ」とする要因分析



営農活動に取り組んでいる組織では、基礎的維持管理活動の強化が担い手の作業軽減になったかという点で、「不満」とする割合が全体に比べ高くなっている。

これは、減農薬・減化学肥料栽培を進めるにあたり、担い手農家の手間がより多くかかる中で、病害虫対策のため農用地周辺の草刈りを充実させる必要にも迫られるなどの事由により、担い手農家が基礎的維持管理活動の充実を望む程度が、営農未実施の組織に対して高いことによると考えられる。



規模拡大意向のある担い手農家の方が、意向のない農家より「不満だ」とする割合が少し高くなっている。

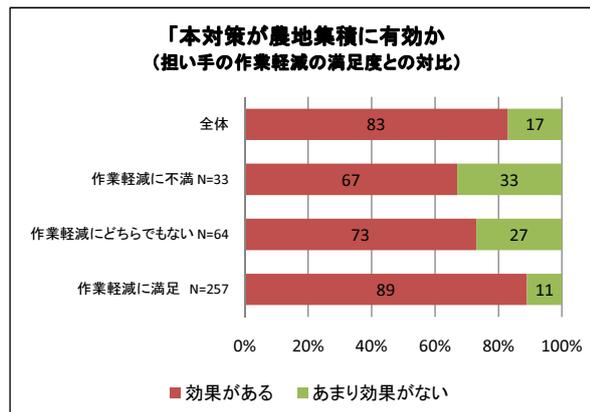
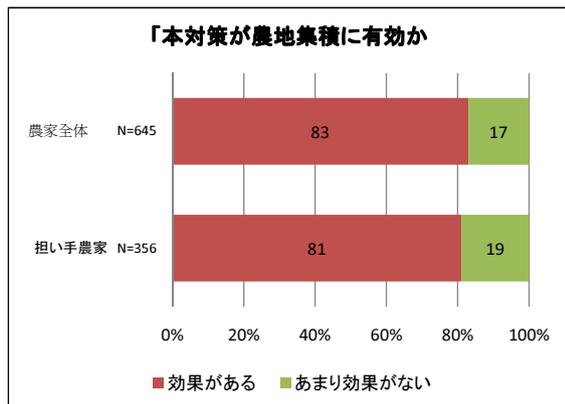
規模拡大意向のある農家ほど目標が高く、不満だとする割合が高くなっている。

減農薬・減化学肥料栽培や規模拡大を指向する地域においては、併せて、基礎的維持活動や施設の修繕保全活動を充実させていくのが有効な方策と考えられる。

## II 課題点の抽出と分析

### (2) 担い手の基礎的維持管理活動強化に対する満足度

#### ④「本対策が農地集積に有効か」の検証



前項目で「規模拡大を指向する担い手農家では本対策の維持管理が作業軽減に結び付いたか」の設問に、「不満だ」とする割合が、担い手農家全体に比べ3ポイント程度高くてたことから、「本対策が農地集積に有効か」という点について検証した。

「本対策が農地集積に有効か」という農業者に対しておこなった設問では、有効とする割合が80%以上となっており、担い手農家だけに限ってもあまり差はなかった。

また、担い手農家の作業軽減の満足度別にみると、満足度が高いほど「有効」とする割合が高くなり、「満足」とした組織では「有効」との回答が9割程度との結果がえられた。

これらの結果から、「本対策は農地集積に有効である」という点は証明されたと考える。

19

## II 課題点の抽出と分析

### (2) 担い手の基礎的維持管理活動強化に対する満足度

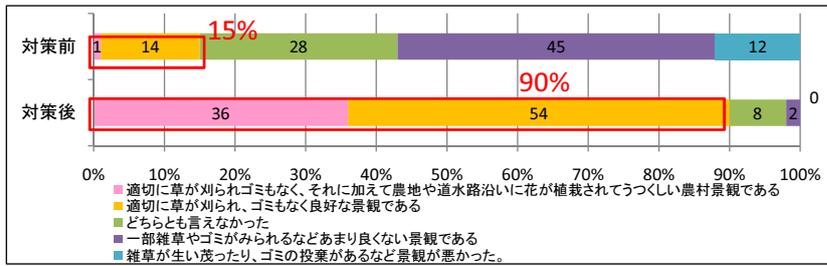
#### ◆まとめ 「担い手農家の満足度」分析◆

- ・ 本対策が農地集積に有効だという点は、検証された。
- ・ 「維持管理活動の強化が担い手の作業軽減に結び付いていない組織があるのでは」という危惧に対しては、基礎活動の活動参加人数と相関が薄く、他の要因との相関が高かったことから、「基礎活動が低調なため」ということは、ごく一部にはあっても、主要因ではないと判断する。
- ・ 「担い手農家の満足度」をあげるためには、基礎的維持管理活動だけでなく、生産資源の保全・修繕活動（農地・水向上活動）を充実させることが有効。さらに非農業者を生産資源の保全・修繕活動により多く取り込めれば一層効果的である。
- ・ 経営規模拡大や減農薬・減化学肥料を指向する地域では、担い手が望む基礎的維持管理活動のレベルが高く、一層の活動の充実が求められている。

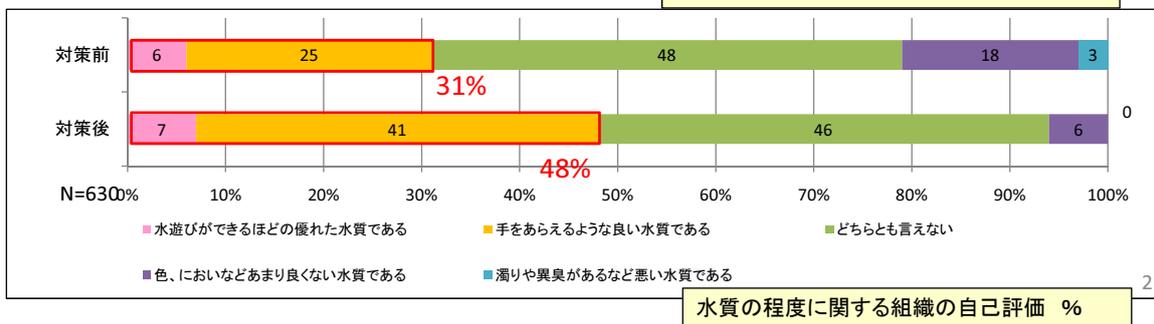
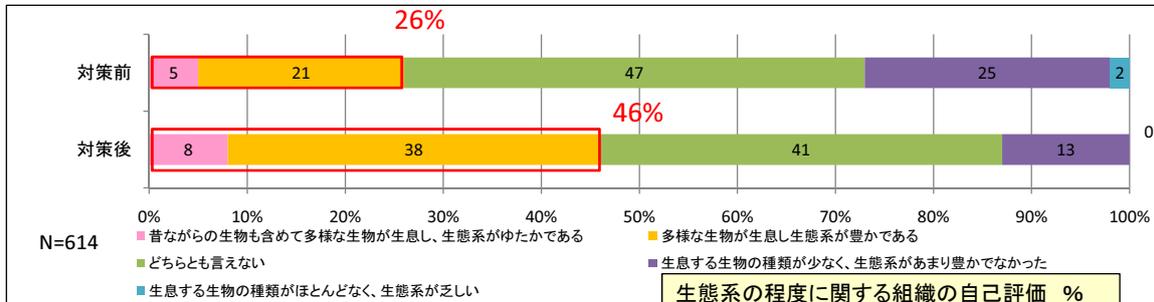
20

## II 課題点の抽出と分析

### (3) 生態系保全と水質保全の向上度



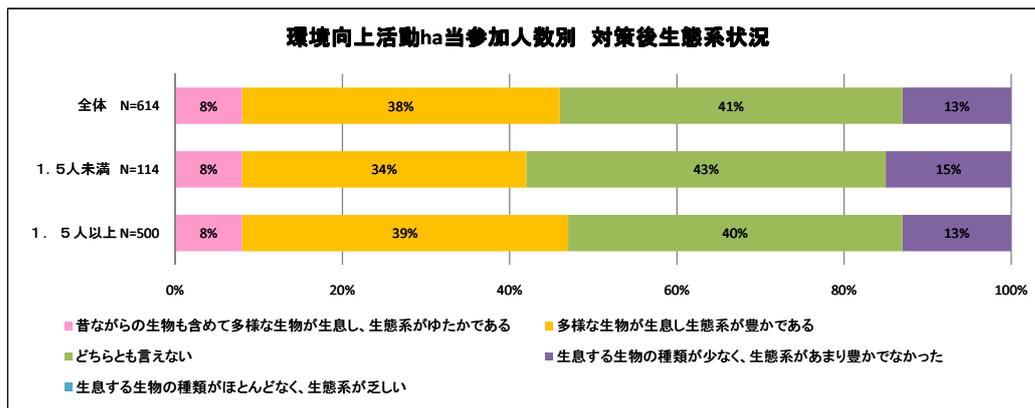
農村部の景観は、本対策により飛躍的に向上したが、生態系・水質については、向上度がゆるやかである。  
要因と対応策を探る。



## II 課題点の抽出と分析

### (3) 生態系保全と水質保全の向上度

#### ① 農村環境向上活動の参加者別にみる対策後の生態系の状況



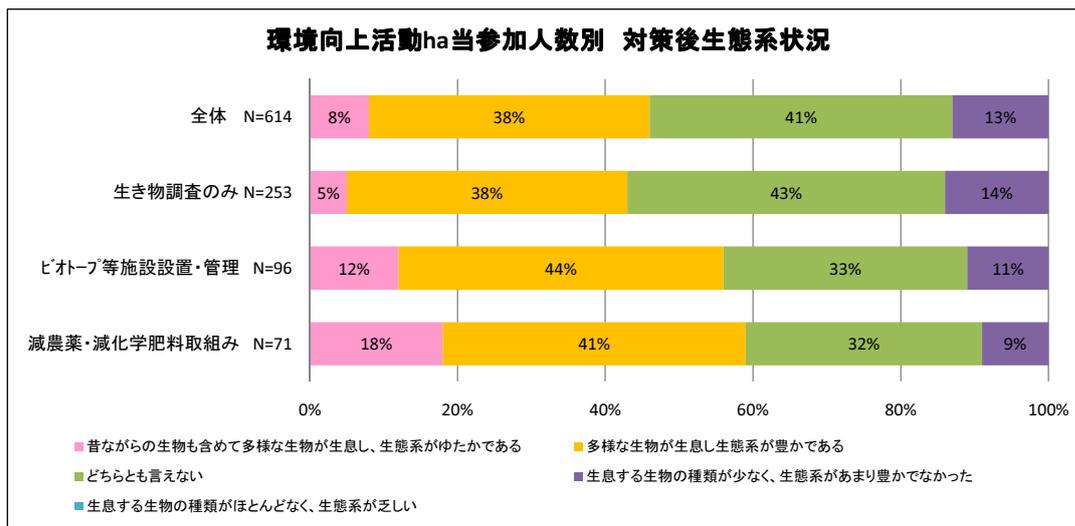
農村環境向上活動の面積当たり参加人数区別に、各活動組織における対策後の生態系の状況を分析すると、活動人数が少なくて生態系の状況が悪いが、参加人数区分ではほとんど差がない。

参加人数の多寡(活動の充実度の問題)というより、どの活動を選択して活動したかの方が影響が大きいのではと想定される。

## II 課題点の抽出と分析

### (3) 生態系保全と水質保全の向上度

#### ② 生態系保全の具体的活動別対策後生態系の状況



地域が選択した活動別に対策後の生態系の状況を見ると、生き物調査のみ実施の地区では、県平均よりも状況が悪いくらい。しかしビオトープなどの生態系保全施設の設置管理をしている組織では県平均より10ポイント程度「生態系が豊か」とする回答が多くなっている。

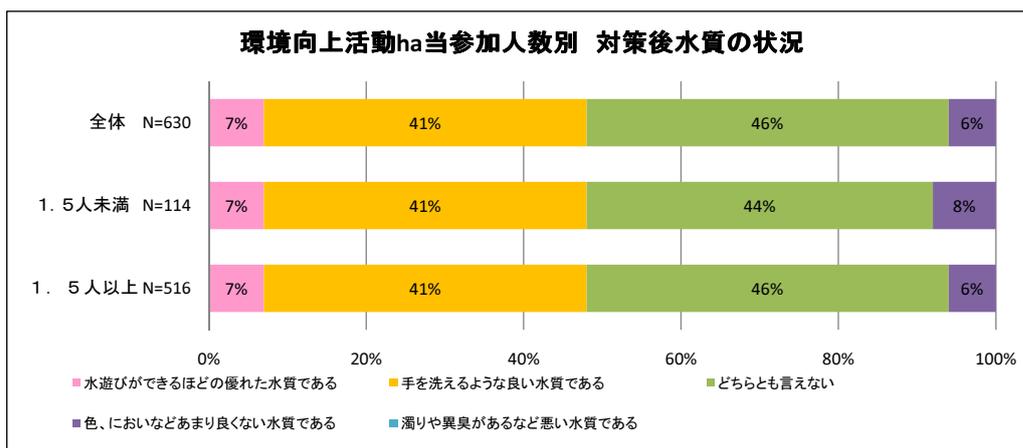
生態系保全に最も効果の高い活動は、営農活動に取り組み減農薬・減化学肥料栽培を実施することだが、それが困難であっても、そろそろ調査主体から、生態系保全の具体的活動へと充実を図っていきたいところ。

23

## II 課題点の抽出と分析

### (3) 生態系保全と水質保全の向上度

#### ③ 農村環境向上活動の参加者別にみる対策後の水質の状況



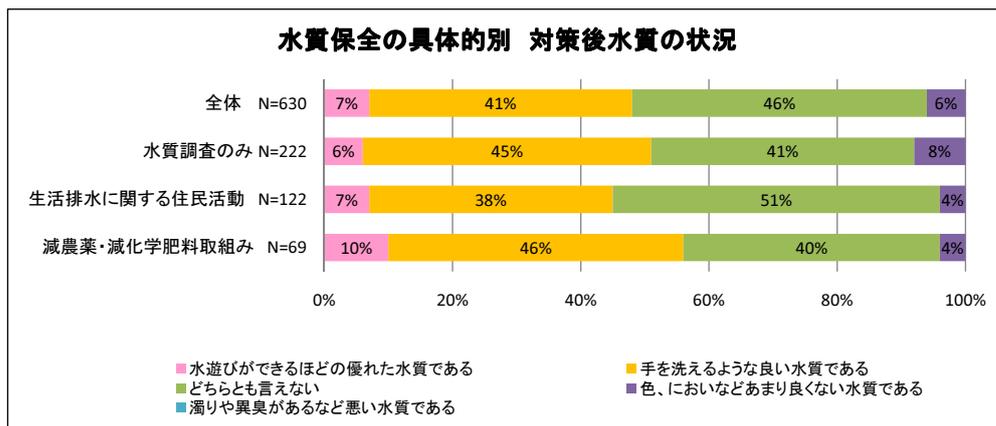
農村環境向上活動の面積当たり参加人数区別に、各活動組織における対策後の生態系の状況を分析すると、参加人数区分ではほとんど差がない。

参加人数の多寡(活動の充実度の問題)というより、どの活動を選択して活動したかの方が影響が大きいのではと想定される。

## II 課題点の抽出と分析

### (3)生態系保全と水質保全の向上度

#### ④水質保全の具体的活動別対策後水質の状況



地域が選択した活動別に対策後の水質の状況を見ると、水質調査のみ実施の地区では、県全体と比較してほとんど差がない。本対策の実践活動には位置づけられないが参考まで「生活排水に関する住民活動」を実施している地域をみると、「水質」に課題を持っている組織が多いためか県全体より少し状況は悪いくらいである。

減農薬・減化学肥料に取り組みれば水質の改善が計れることは明らかであるが、実施組織と未実施組織の差は「生態系」よりも少なくなっている。

\* 減農薬・減化学肥料取り組み組織 「良い」とする県全体との割合の差  
生態系 16ポイント 水質 8ポイント

水質保全については、生態系にも増して、活動組織単位だけの活動では、改善に限界があることを示していると考えられる。

25

## II 課題点の抽出と分析

### (3)生態系保全と水質保全の向上度

#### ◆まとめ 「生態系・水質保全の向上度」分析◆

・「生態系保全」「水質保全」について、これを選択する活動組織に対しては、生き物調査や水質調査だけでなく、向上に結び付く具体的実践活動を実施していくよう指導することで、本対策の成果を一層高められると考えられる。

・「生態系保全」「水質保全」とも、営農活動による減農薬・減化学肥料の取り組みを実施することが一番効果が高かった。

・「生態系保全」に関しては、ビオトープやホタル水路等の生態系保全施設の設置管理を実施した活動組織では、一定の成果が得られており、これを推進することは有効である。

・「水質保全」に関しては、具体的実践活動の提案や場合によっては組織間連携の取り組みの推進など、一層の推進策が望まれる。

26

## II 課題点の抽出と分析

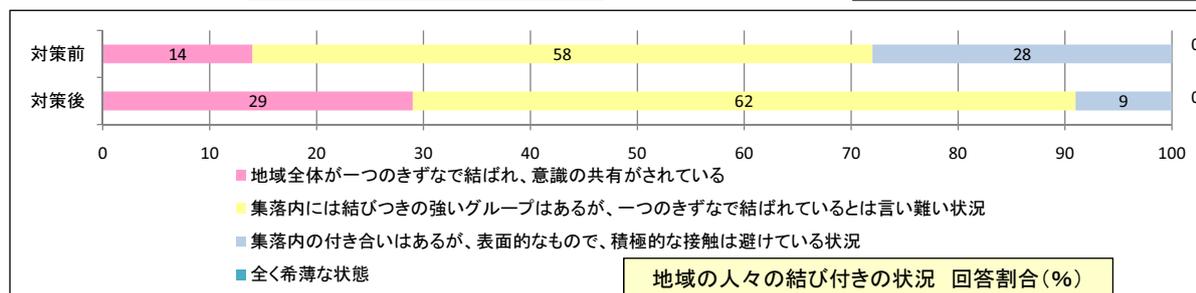
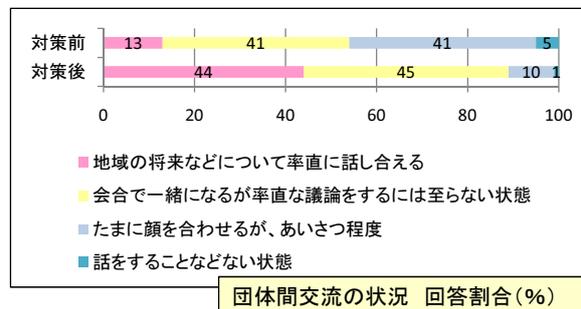
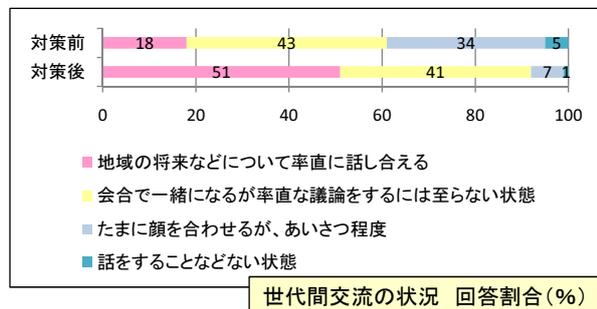
### (4)「地域の人々の結び付き」の向上度

団体間の交流状況が、世代間の交流状況より多少悪いということについては、「本対策では多様な非農業者団体の参画を図っているに何故」という印象がある。

また、「地域の人々のつながり」は集落機能活性化の核となると考えられるので、これをより一層強化したい。

このため、要因と対応策を探る。

再掲

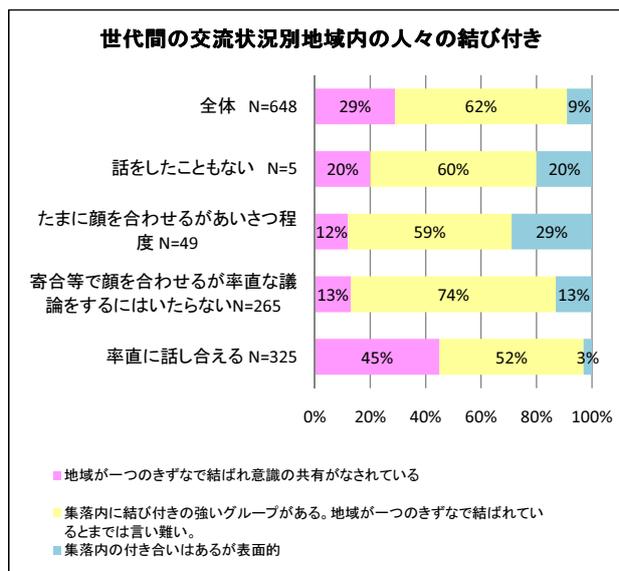
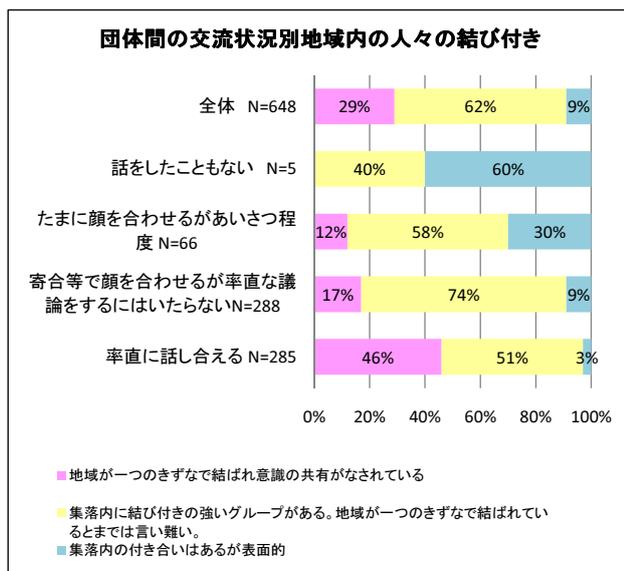


27

## II 課題点の抽出と分析

### (3)「地域の人々の結び付き」の向上度

#### ①地域内の交流の状況と地域の人々の結び付きの状況



組織内の各団体間及び世代間の交流状況が、「率直に話し合える」まで到達している組織は、地域内の人々の結び付きが急激に良化している。

また本対策では、多様な非農業者団体が参画しているので、他団体が主体となる活動に農業者が参画するとかの、団体交流促進策も地域の人々の結び付きの強化に有効であろうと考える。

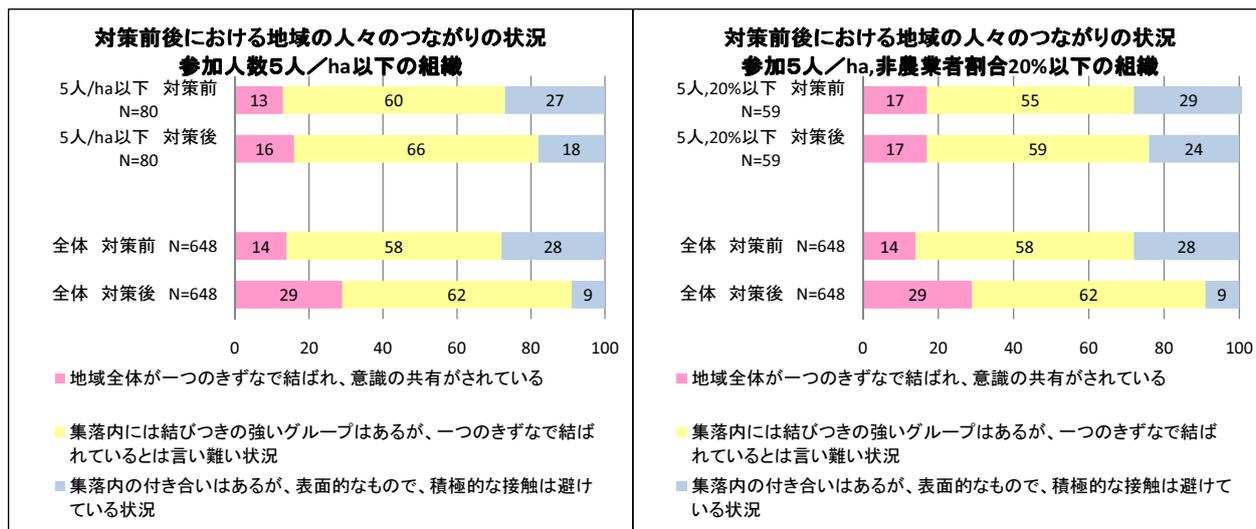
活動組織内の話し合いについては、会合等に単に参加者を増やすだけでなく、集まった人々が率直に話し合えるようにすることが肝要と考える。

28

## II 課題点の抽出と分析

### (4)「地域の人々の結び付き」の向上度

#### ②単位面積当たり活動参加者数と地域の人々の結び付きの状況



活動参加人数が少ない組織(左表)では、人々のつながりの良化程度が県全体に比べ少ない。また非農業者参画割合まで小さいとほとんど良化がみられなくなる。

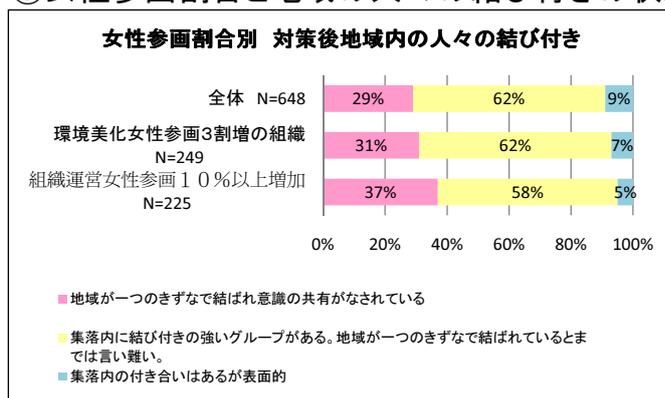
活動参加人数が少ない組織でかつ非農業者参画割合も少ない組織に対しては、底上げが必要。

29

## II 課題点の抽出と分析

### (4)「地域の人々の結び付き」の向上度

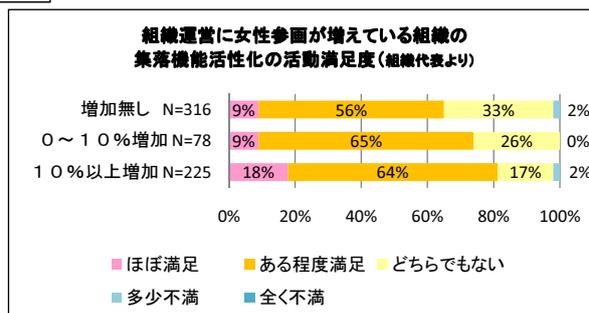
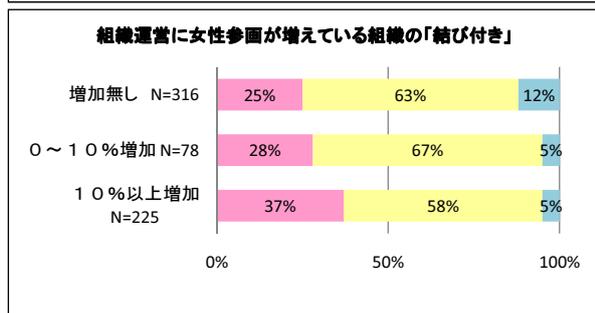
#### ③女性参画割合と地域の人々の結び付きの状況



女性参画割合別に、対策後の人々の結び付き状況をみると、環境美化活動に参加する女性が、対策前後で30%以上増加していても、県平均からみて「結び付き」はやや良化といったところ。

一方組織運営に女性が10%以上増加している組織では、「結び付き」の良化傾向がはっきりしている。

また、増加程度により、「結び付き」や「活動満足度:集落機能活性化」に related した向上効果がみられる。



「地域の人々の結び付き」を向上させるには、女性に環境美化活動ばかりでなく、組織運営に参画して貰うことが効果的。

30

◆まとめ 「地域の人々の結び付きの向上度」分析◆

- ・ 活動組織内の各団体間や、世代間の交流が、会合等において「率直に話し合える」という段階まで達すれば、「地域の人々の結び付き」は大幅に向上する。
- ・ 本対策では、多様な非農業者団体が参画しているので、これら団体間の交流が「率直な話し合いができる」の段階まで到達できるような何らかの対応策が求められる。
- ・ 活動参加人数が少なく非農業者参画割合の少ない組織（目安として5.0人/ha以下かつ非農業者20%以下の組織）には、底上げ策が必要。
- ・ 環境美化活動ばかりでなく、組織運営に女性が参画するようになると、地域の人々の結び付きは大幅に向上する。

## II 課題点の抽出と分析

### (5)各目的に対する到達度

再掲



各目的に対する到達度をみると、「少しは達成」以下が2~3割程度ある。

これら組織の要因分析や、到達度を向上させる別指標の分析により、到達度を上げる有効な方策を探る。

33

## II 課題点の抽出と分析

### (5)各目的に対する到達度

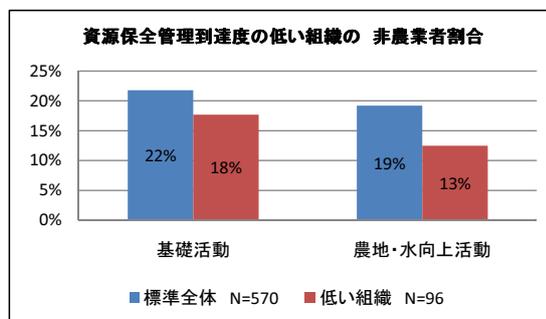
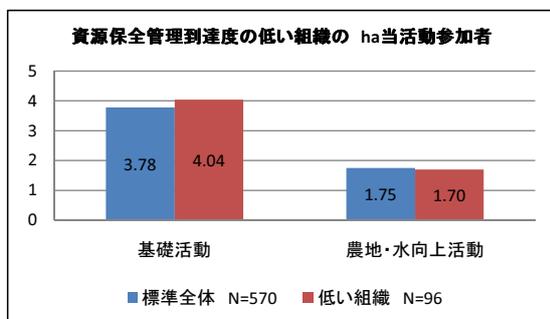
#### ①生産資源の保全管理に関する到達度

「生産資源保全管理」到達度の低い組織の  
全活動参加人数と非農業者参画割合

	ha当参加人数	非農業者参画割合
特殊要因がない標準的組織 N=570	8.42	30.7%
到達度の低い(2<=)組織 N=96	8.69	24.7%

生産資源保全管理の目的への到達度が低い(番号2:少しは達成)以下の組織について、面積当たり活動参加者数をみると、県内の特殊要因がない組織平均よりも多いくらい。

一方、非農業者参画割合(全活動)は県平均を大幅に下まわっており、これが要因かと想定される。



到達度の低い組織では、面積当たり活動参加者数は県全体の標準的な組織と変わらないものの、基礎活動に重点がおかれ、農地・水向上活動の参加者が少ない。

また、基礎も農地水向上も非農業者の参画割合が低く、特に農地水向上では一層少ない。

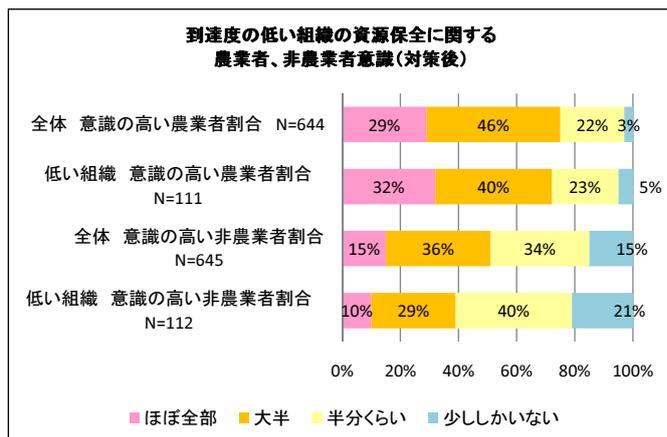
基礎から農地・水向上に活動のステップアップを図ること、非農業者をもっと巻き込んで、農地水向上活動を展開していくことが有効と考えられる。

34

## II 課題点の抽出と分析

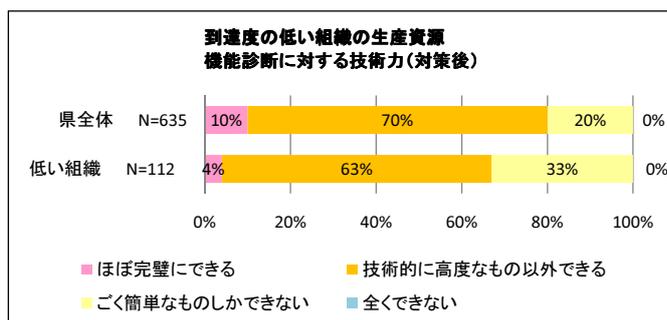
### (5)各目的に対する到達度

#### ①生産資源の保全管理に関する到達度



活動組織内の構成員で生産資源保全管理に意識の高い農業者や非農業者の割合を県平均と比較すると、達成度の低い組織では、農業者の意識ではほとんど変わらないものの、非農業者の意識は大きく県平均を下まわる。

非農業者の参画数ばかりでなく、意識を変えることが重要と考えられる。



到達度の低い組織では、水路等の機能診断の技術力も、県全体に比べ低い傾向がある

機能診断は資源保全の基礎的な部分であり、この技術力を向上させることが必要。

35

## II 課題点の抽出と分析

### (5)各目的に対する到達度

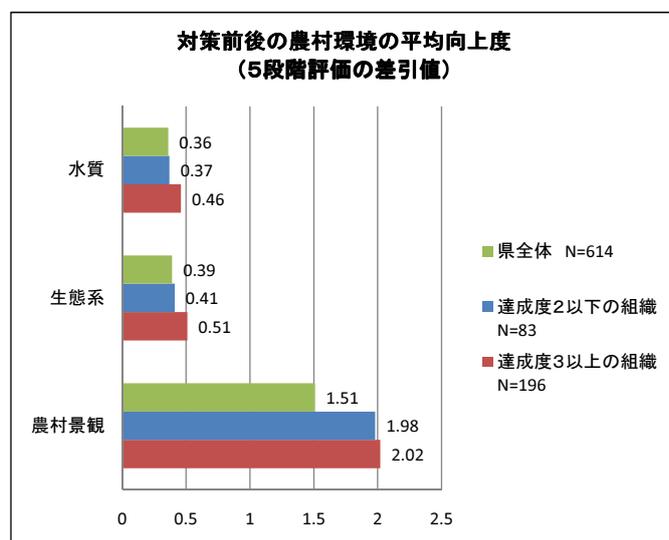
#### ②農村環境向上に関する到達度

「農村環境向上」到達度の低い組織の  
環境活動 参加人数と非農業者参画割合

	ha当参加人数	非農業者参画割合
特殊要因がない標準的組織 (N=570)	2.89	49.3%
到達度の低い(2<=)組織 (N=78)	3.22	52.2%

農村環境向上の目的への到達度が低い(番号2:少しは達成)以下の組織について、面積当たり活動参加者数や非農業者参画割合は県平均よりも良いぐらい。

よって、参加人数の多寡や非農業者の取り込みが主要因ではないと考える。



到達度の高い組織と低い組織の比較さらには、農村環境向上の目的を選択しなかった組織を含む県全体を比較した。

「景観」については、高い組織も低い組織もあまり向上度に差が出ない。しかし、生態系や水質については、景観程には改善度は高くなく、また県全体と到達度の低い組織の差が小さい傾向にある。

「生態系」や「水質」について当初思った程に改善できていないことが、到達度の低さにつながったのではと考えられる。

36

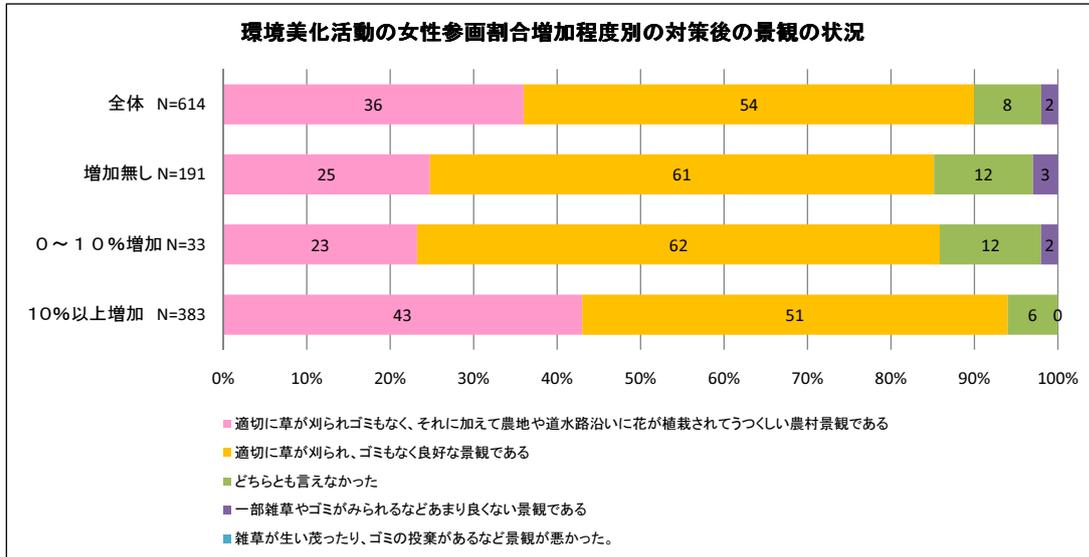
## II 課題点の抽出と分析

### (5)各目的に対する到達度

#### ②農村環境向上に関する到達度

農村環境向上の目的への到達度が低い(番号2:少しは達成)以下の組織について、要因分析を行ったが、「生態系」や「水質」をあまり改善できていないということに要因があると考える。これに対する分析・対応策はII-(3)と同様である。

一方、農村景観に対しては、環境美化活動に対して、女性の参画割合が増えれば、対策後の景観が良化するという傾向が確認された。



37

## II 課題点の抽出と分析

### (5)各目的に対する到達度

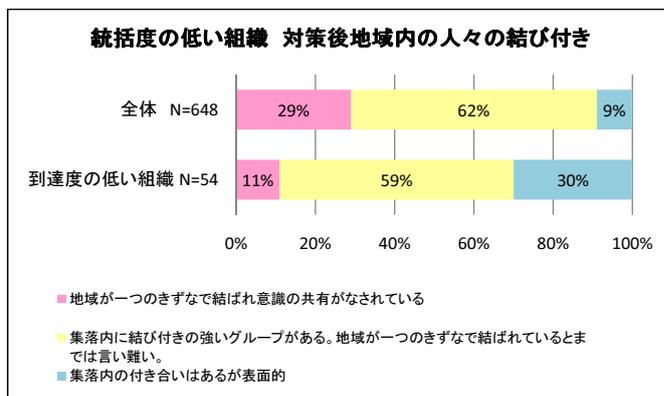
#### ③集落機能活性化に関する到達度

「集落機能活性化」到達度の低い組織の  
全活動 参加人数と非農業者参画割合

	ha当参加人数	非農業者 参画割合
特殊要因がない 標準的組織 N=570	8.42	30.7%
到達度の低い(2<=) 組織 N=78	8.70	29.3%

集落機能活性化の目的への到達度が低い(番号2:少しは達成)以下の組織について、面積当たり活動参加者数を見ると、県内の特殊要因がない組織平均よりも多いくらい。

また非農業者参画割合も遜色はなく、これらが要因ではないと考えられる。



到達度の低い組織では、対策後の「地域の人々の結び付き」が低く、これが主要因と考えられる。

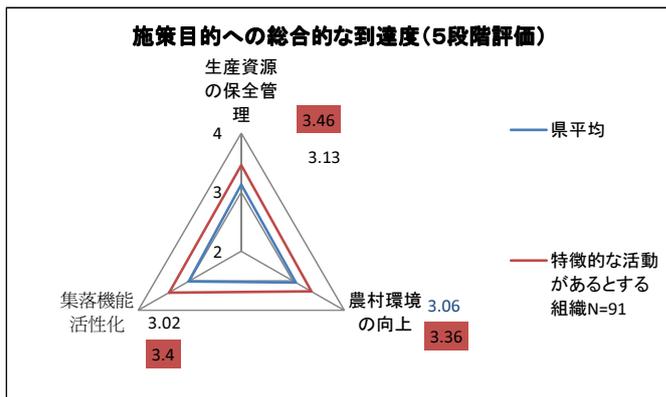
これに対する分析と対応はII-(4)と同様である。

38

## II 課題点の抽出と分析

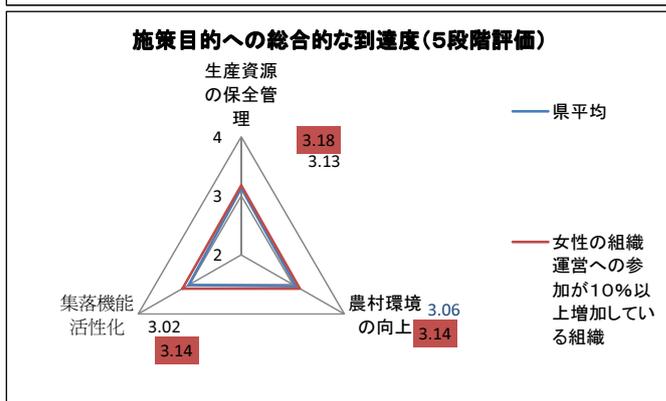
### (5)各目的に対する到達度

#### ④「生産資源保全管理」、「農村環境向上」「集落機能活性化」 総合到達度



活動のシンボルとなるような特徴的な活動を持つという組織では、総合到達度が県平均を大きく上回るという結果が得られた。

何か活動の核を持つことが、全体的に活動の成果を高めることに極めて有効だと言える



女性が組織運営に参画するようになり、対策前の集落運営時からみて10%以上増加したという組織では、総合到達度が、県平均を若干ながら各項目とも上回ることが確認された。

女性を組織運営にまで参画して貰うようにすれば、成果を総合的に底上げすることができると考えられる。

39

## II 課題点の抽出と分析

### (5)各目的に対する到達度

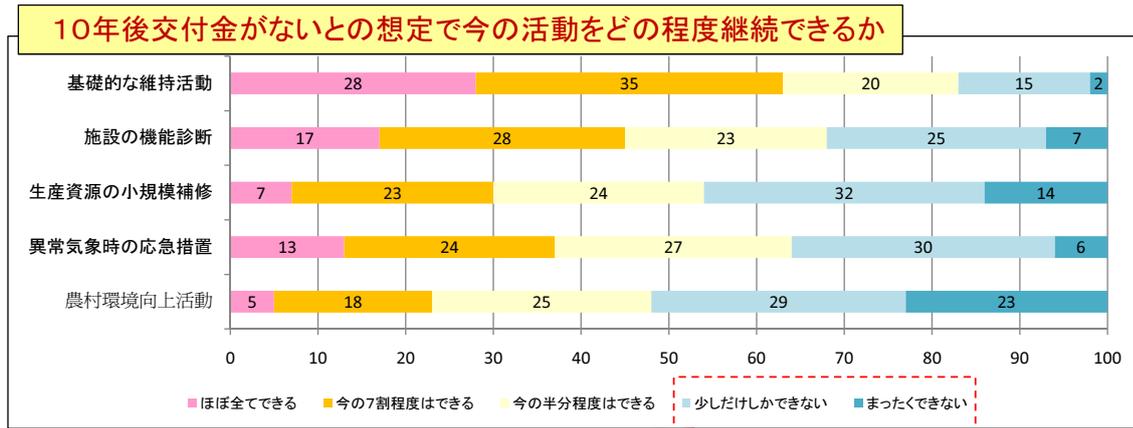
#### ◆まとめ 「各目的に対する到達度」分析◆

- 「生産資源保全管理」の到達度の低い組織への対応策としては
  - ・非農業者の参画を増やすこと、特に農地・水向上活動を増やせば効果的。また生産資源に対する非農業者の意識変革も有効
  - ・比較的技術力が低い傾向にあるので、特に機能診断技術等の基本的な部分の向上を図ることが有効
- 「農村環境向上」や「集落機能活性化」では、II-(3)及び、II-(4)の対応策が有効。
- 到達度全体をあげるのに効果的な手段は
  - ・活動の核となるようなシンボリックな活動をもつこと
  - ・組織運営に女性の参画を促すこと

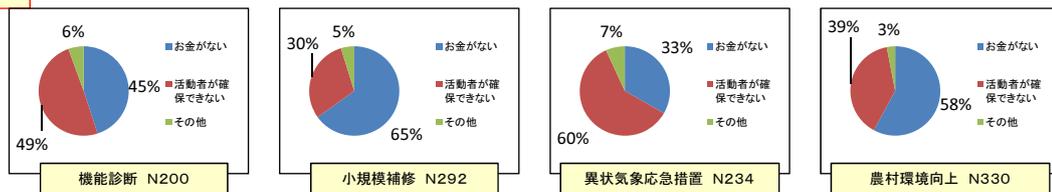
40

## II 課題点の抽出と分析

### (6) 活動の持続性



#### できない理由



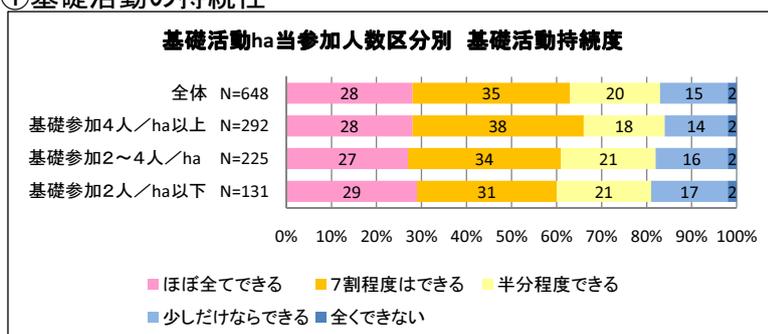
生産資源の小規模補修のように、資金がなければなかなか継続が困難な活動項目もあるが、基礎部分でさえ、「少しだけしかできない」以下の回答が2割弱あるため、交付金が無くなれば従来からの活動もできなくなるといことかとの懸念があるので、要因分析等を行う。

41

## II 課題点の抽出と分析

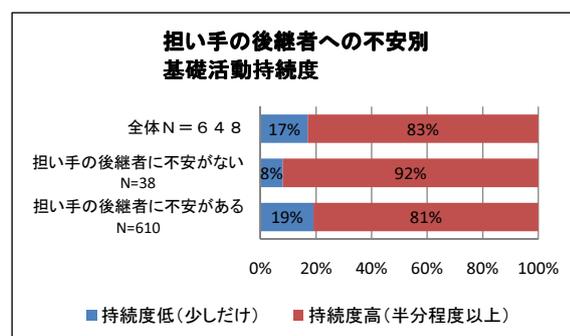
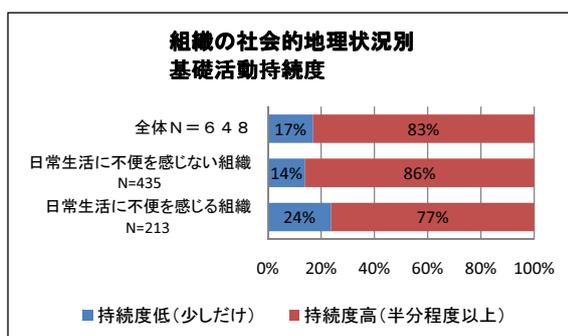
### (6) 活動の持続性

#### ① 基礎活動の持続性



基礎活動の参加人数区分別に持続度をみてみると、ほとんど影響はない。

活動が充実していないから持続できないといったことではないと考えられる



基礎活動の持続度の低い組織は、日常生活に不安を感じる地域や担い手の後継者の不安のある地域に多い傾向がある。

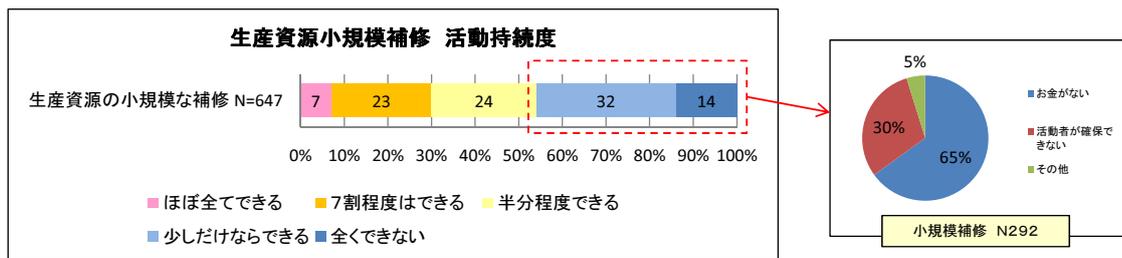
地域の将来への不安がでていもので、交付金がなくなればすぐに、対策前からの活動までできなくなるといことではないと考えられる

42

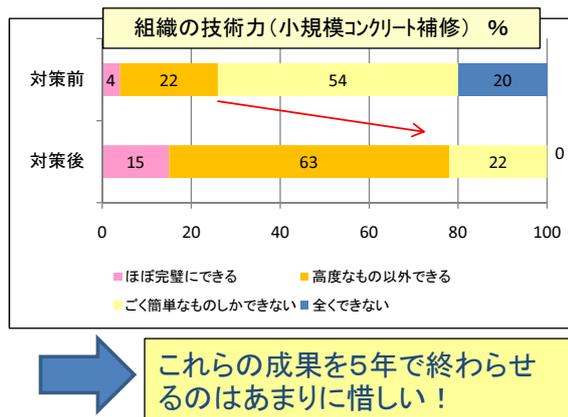
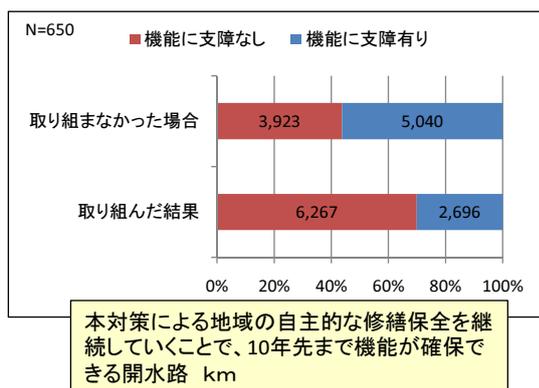
## II 課題点の抽出と分析

### (6) 活動の持続性

#### ② 生産資源の小規模補修の持続度



生産資源の小規模補修などは、資金がなければなかなか継続が困難であろうとは考えられる。今の活動の何割かは、本対策で培った技術力で施工機械等を持ち寄りボランティア対応により継続できる組織もあるであろうし、それを推奨したいところだが、限界はあり、農村地域で幅広く継続するには、本対策期間終了後もなんらかの継続支援策が望まれるところである。



43

## II 課題点の抽出と分析

### (6) 各目的に対する到達度

#### ◆まとめ 「活動の持続度」分析◆

・ 本対策前から地域で実施されていた基礎的な維持管理まで持続度が低い組織があったため、要因分析をおこなったが、地域のおかれた社会的条件や農業の担い手など、将来に関する不安からきたものと判断した。

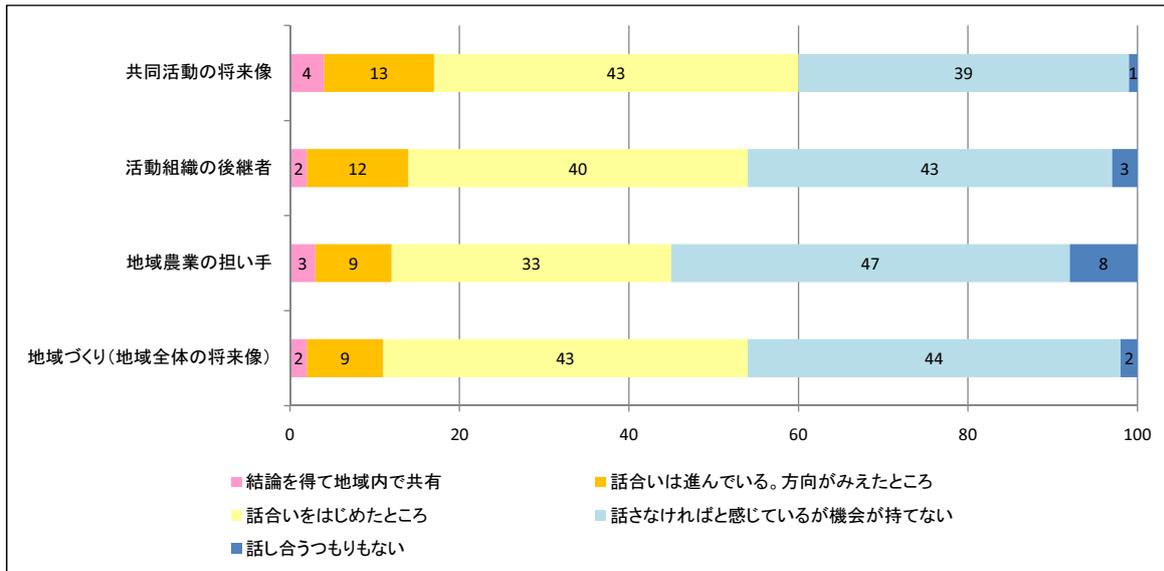
・ 「生産資源の小規模補修」は、本対策により活動組織が技術力を身につけ、自ら点検して修繕保全を行うことにより、将来にわたって長期的に使用できる生産資源が飛躍的に増加するなど、大きな成果が得られており、本対策終了後も何らかの継続支援策が望まれるところである。

44

## II 課題点の抽出と分析

### (7) 地域の将来に関する話し合いの進捗

地域の将来に関する話し合いが進んでいない。どういう状態ならば進むのか分析して有効な指導方針を探る

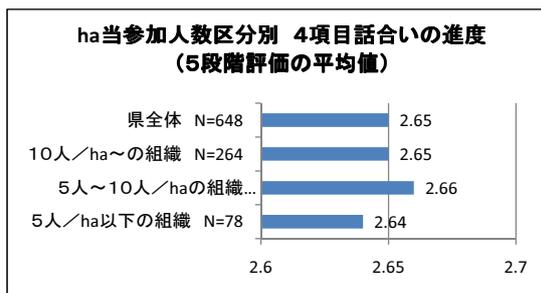


45

## II 課題点の抽出と分析

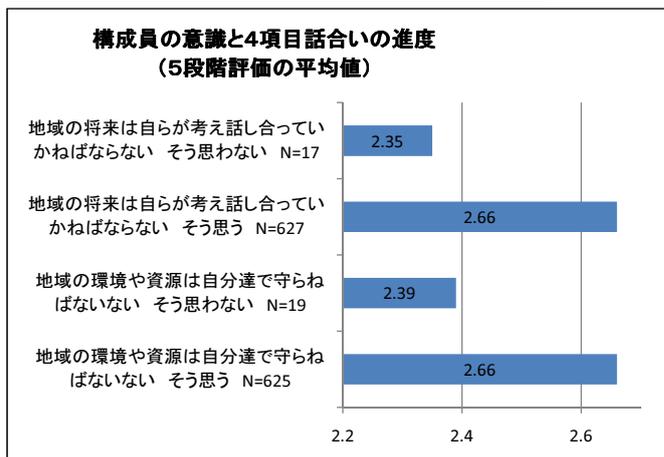
### (7) 地域の将来に関する話し合いの進捗

#### ① 活動参加者数や対策後の構成員意識との関係



活動参加人数の多寡では、話し合いの進捗には影響がない。

活動が充実していないから、話し合いが進まないということではないと考えられる



構成員の将来に対する意識が低ければ、当然将来への話し合いは進みづらい。

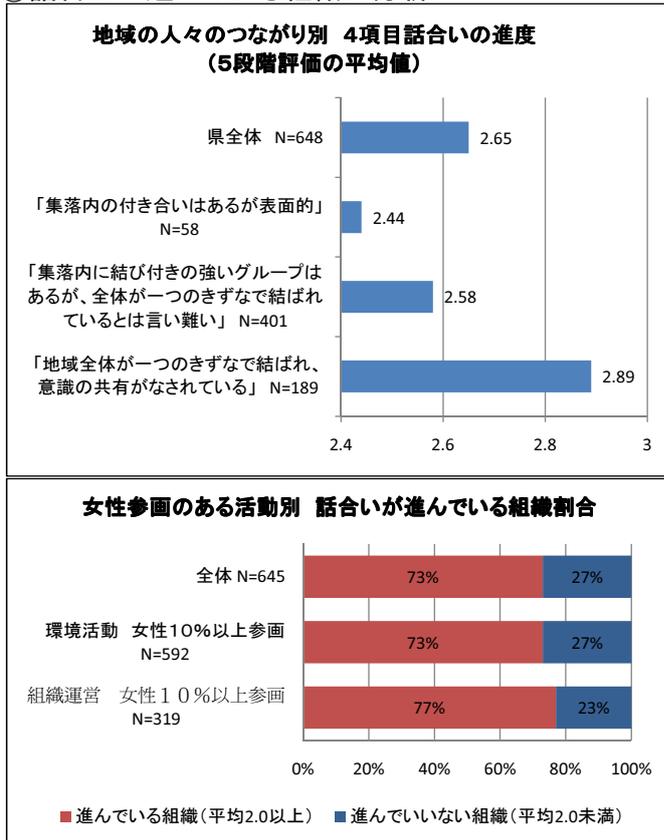
しかし、計数的にみると「そう思わない」割合はごく少数なので、「そう思っている」地域を後押しする策が必要と考えられる。

46

## II 課題点の抽出と分析

### (7) 地域の将来に関する話合いの進捗

#### ② 話合いが進んでいる組織の分析



地域の人々のつながりが「意識の共有がなされている」段階まで達している組織では、将来に対する話合いの進捗が良い。

よって、II-(4)で行った分析と同様に活動への女性参画割合との関連をみると、同様に、環境活動に女性が参画していても話合いの進捗に変化はないが、組織運営に女性が参画している組織では、比較的進捗がよい傾向が確認された。

話合いを進めるためには、地域の人々の結び付きを向上させることが効果が高いが、性格上すぐに改善されるものではない。

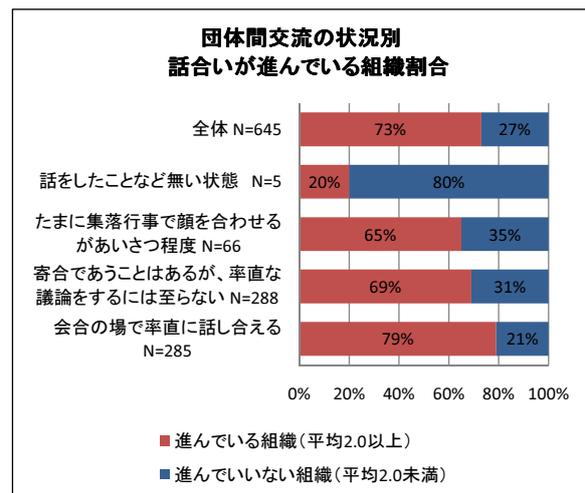
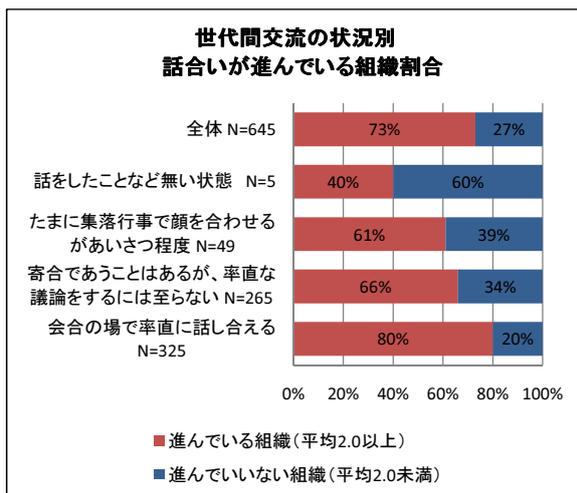
すぐできる対応策として女性に組織運営に参画してもらうことは効果的。

47

## II 課題点の抽出と分析

### (7) 地域の将来に関する話合いの進捗

#### ② 話合いが進んでいる組織の分析



世代間や団体間の交流する機会において、「率直に話ができる」という状態であれば、将来に関する話合いの進捗もよいという結果であった。

組織内の話合いは、単に参加者を増やすだけでなく、「率直に話ができる」という状態にすることが肝要と考える

◆まとめ 「地域の将来に関する話合い」分析◆

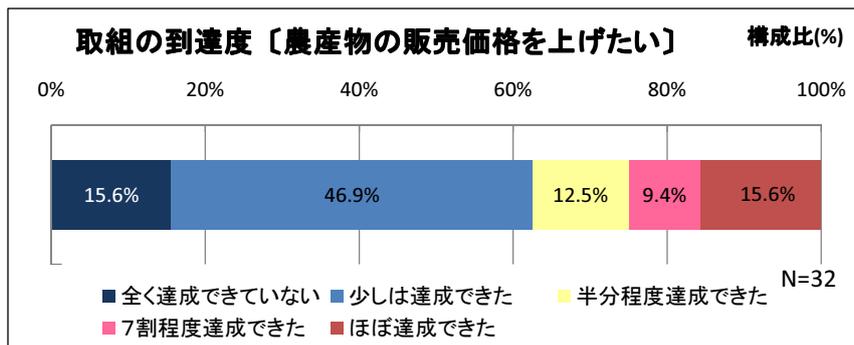
・地域の将来に関する話合いを進展させるためには、「話そうと思っているが機会がもてない」との回答が多いことから、話し合うきっかけを作ることも有効と考える。21年度末までに各組織から提出のあった共同活動の将来計画「体制整備構想」を題材に、その中身の充実を組織に働きかけていくことが効果的と考える。

・話合いの進んでいる組織では、「地域の人々の結び付き」や「組織運営への女性の参画」「世代間や団体間で率直に話し合える」などの点で、進んでいない組織に対して状況が良いことが確認された。この点について、組織を誘導していくことも効果的と考える。

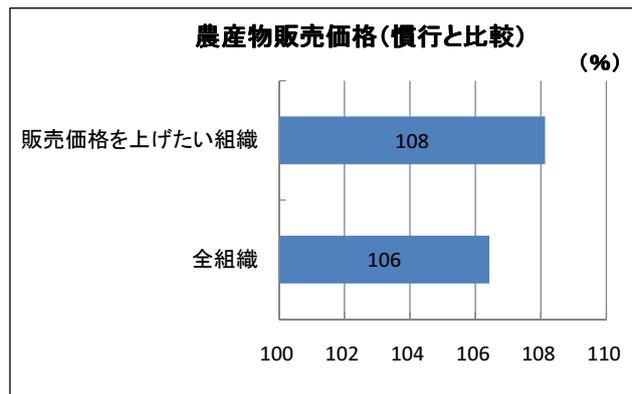
## II 課題点の抽出と分析

### (8) 農産物販売価格

#### ① 販売価格を上げたい組織の達成度、販売価格



取組の到達度	組織数
ほぼ達成	5
7割達成	3
半分達成	4
少し達成	15
達成できない	5
計	32



本対策に取り組む目的のうち、「農産物の販売価格を上げたい」を選択した組織のうち、約60%が全く達成できないか、少ししか達成できない。

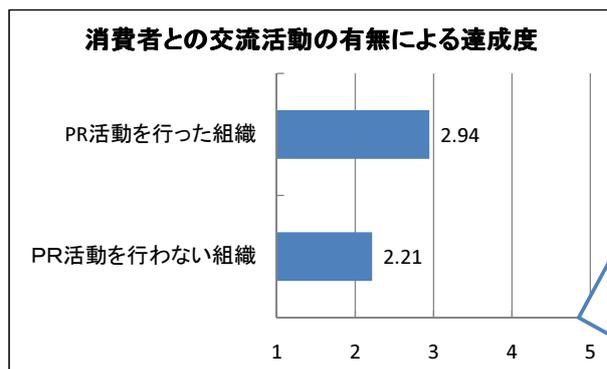
農産物を販売価格を上げたい組織の農産物の販売価格は、全組織の平均と比較すると2ポイント程度高い。

51

## II 課題点の抽出と分析

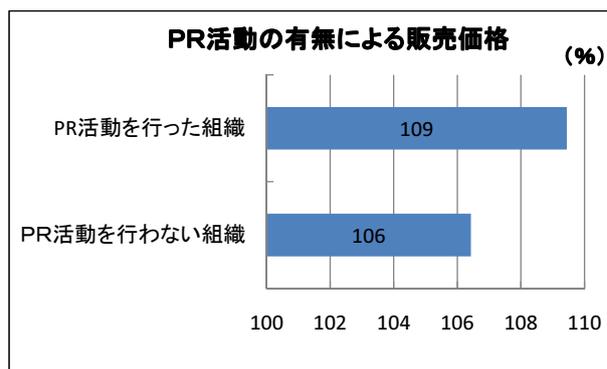
### (8) 農産物販売価格

#### ② 消費者との交流活動による価格の変化



〔達成度〕  
 ほぼ達成…5  
 7割程度成…4  
 …4  
 半分達成…3  
 少し達成…2  
 達成できい…1

消費者との交流活動	全組織	販売価格を上げたい組織
組織数	84	32
取組組織数	42	18
意見交換会	16	5
広報パンフ	7	5
展示販売	9	5
アンケート	2	1
HP	0	0
広報看板	20	7
ブランド化	5	4
活動計	59	27



消費者との交流活動(PR活動)を実施した、販売価格を上げたい組織は全組織と比較してもほとんど差はない。

農産物を販売価格を上げたい組織のなかでPR活動の有無による達成度及び販売価格の平均は、PR活動を行った組織の方が高い。

PR活動を実施することで達成度や販売価格が向上する可能性が高い。

52

◆まとめ 「農産物販売価格」分析◆

・ 農産物販売価格を上げたいと思っている組織の半数近くは、そう思いながらも具体的なPR活動を実施していないため、販売価格の向上には繋がっていない。

・ 営農活動を継続して行うには、各種PR活動を行いながら、様々な販売先を開拓するよう誘導することが必要と考えられる。

### Ⅲ 課題点の再整理と今後の対応策

#### (1) 課題点の再整理

仮定した課題点			課題としての検証結果	整理統合した課題点	整理後番号
番号	事項名	内容			
(1)	活動状況のばらつき	活動の参加人数には組織間の「ばらつき」があり、活動の充実度が低い組織が1～2割程度存在するのでは	1割程度の組織は、県平均に比して、活動参加人数も少なく、非農業者の参画割合が少なく、課題	活動全体の一層の充実を図るには	1
(2)	担い手農家の作業軽減	基礎的な維持活動強化が担い手農家の作業軽減に結び付いていない組織が2割程度あるのでは	活動の内容というよりも、担い手農家の目標の高さに起因する部分が多いことが確認されたが、一層の向上策が必要	地域ぐるみの活動を効果的に展開するには	2
(3)	「生態系」や「水質」の向上度	生態系や水質も対策前後で向上しているが、飛躍的に向上した景観程は良化が鈍い	農村環境向上のため、それぞれに効果的な活動を推進する必要あり	生産資源の保全管理を一層充実させるには	3
(4)	地域内の人々の結び付き	「意識の共有ができていない」といった段階まで到達している組織が3割程度と少ない	人々の結び付きは「集落機能活性化の核」。このため向上策が必要	「生態系」や「水質」を一層向上させるには	4
(5)	到達度の低い組織	各目的への到達度が低い組織が2～3割程度存在する。	「生産資源保全」には非農業者参画割合等の課題点あり。その他「環境」や「集落機能」は他項目と同様	「組織内の人々の結び付き」を一層向上させるには	5
(6)	活動の持続性	10年後交付金がないとの想定で、対策前からやっていた基礎的維持活動まで継続度が低い組織が2割弱ある	基礎については、地域の将来に関する不安が強くても、課題とするにはあたらぬが、活動がより持続するための策は必要	「地域が自らが将来を描ける」ようにするためには	6
(7)	地域の将来に関する話し合い	地域の将来に関する話し合いは、まだ始まったばかり。	話し合いを後押しする策が必要		
(8)	農産物販売価格	環境保全型農業の農産物の販売価格の向上が鈍い	PR活動を実施しながら販売先を多様化するなど対策が必要		

### Ⅲ 課題点の再整理と今後の対応策

#### (2) 課題と対応策

課題点	活動組織での対応策	地域協議会の指導方針
<p>活動全体を一層充実させるには</p> <p>&lt;各課題共通対策&gt;</p>	<p>○活動の輪を広げる (非農業者を中心に活動への賛同者、参加者を増やす)</p> <p>&lt;効果的なアプローチ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で共有できる課題点を見つけ、それに対する活動を重点化する</li> <li>・課題が見つけれない場合は、活動の核となるシンボリックな活動を何か一つ創る</li> <li>・組織運営に女性の参画を促す</li> <li>・広報活動を充実させる * ネットや広報紙でなくとも良い。活動成果を知らせるポスターを何回も全戸配布する</li> </ul>	<p>○方部別研修会(県内7支部毎)で「活動の輪を広げるために」をテーマにして、本評価の結果を交えながら研修会を行う</p> <p>○県内で活動組織間連携のプロジェクトを仕掛ける &lt;H22実施予定&gt; 「ひまわりプロジェクト」</p> <p>○女性のための研修会を企画する</p> <p>○優良活動組織表彰に「広報活動部門」を加える</p>

# 相双 ひまわりプロジェクト イメージ図



## Ⅲ 課題点の再整理と今後の対応策

### (2) 課題と対応策

課題点	活動組織での対応策	地域協議会の指導方針
<p>地域ぐるみの活動を効果的に展開していくには</p> <p>&lt;活動参加者の確保がうまくいっていない組織用&gt;</p>	<p>○活動計画の見直しを行う</p> <p>&lt;見直しのポイント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者や役員中心の活動となっていないか</li> <li>・地区みんなで実施する活動が何か他に企画できないか。現在参加していない人が参加できる活動を考えられないか</li> <li>・交付金の使途が、農業者だけの活動や、機械・物品購入、外注修繕工事に偏っていないか</li> <li>・各活動を構成団体で完全分業制にしているか (任せきりにしていないか)</li> </ul>	<p>○地域ぐるみの活動がうまく展開できていないと考えられる組織への、活動計画提出時の指導強化</p> <p>* 地区事情があり一概には判定できないが、目安としては、活動参加者数が5人/ha以下、非農業者参画割合20%以下の組織</p> <p>○方部別研修会に「より良い活動計画のために」をテーマに入れる</p>

### Ⅲ 課題点の再整理と今後の対応策

#### (2) 課題と対応策

課題点	活動組織での対応策	地域協議会の指導方針
<p>生産資源の保全管理を一層充実させるには</p>	<p>○「点検」でなく「機能診断活動」を充実させる                      &lt;診断に自信のない場合&gt;                      ・土地改良区等の技術者の応援をもらう                      ・診断前に、各構成員から意見を聞く機会を設ける</p> <p>○活動の重点を基礎的な維持管理から修繕などの農地・水向上活動に移す                      ・自主施工の取り組みを増やすと効果的</p> <p>○資源保全管理活動への非農業者の参画を増やす                      ・農地水向上活動でふやすことができれば効果的</p> <p>○規模拡大や環境保全型農業を指向する地域では、より一層農地水向上活動を充実させる                      ・担い手農家の意見を聞く</p>	<p>○地域協議会のガイドライン(日当4割、外注2割、基礎4割)については、組織の意向を聞き取ったうえで、弾力的に運用する</p> <p>○施設修繕の各地域での工夫事例、低コスト施工などの事例を収集し、紹介していく</p>

59

### Ⅲ 課題点の再整理と今後の対応策

#### (2) 課題と対応策

課題点	活動組織での対応策	地域協議会の指導方針
<p>「生態系」や「水質」を一層向上させるのは</p>	<p>○生態系に関しては、「生き物調査」主体から「ビオトープ」「ホタル水路」などの具体的活動に発展させていく</p> <p>○水質に関して                      ・調査を拡充する                      地域で課題とするもの(例:窒素濃度、リン濃度)を検査する</p> <p>・具体的活動をやってみる                      &lt;具体的活動の例&gt;                      ・濁水管理の徹底                      ・刈草の流失防止                      ・ビオトープ兼浄化池                      ・水質調査結果を基にした農産物のイメージ向上の活動</p> <p>○営農活動(環境保全型農業)に取り組む</p>	<p>○地域からの「活動のアイデア」に対して柔軟に対応する</p> <p>○生態系、水質保全活動の事例紹介を行うとともに、水質調査の活用などの講演を企画する</p> <p>○広域的な水質改善の取り組み(組織間連携)ができないか調整に着手する</p> <p>○環境保全型農業の取り組みについて紹介していく</p>

60

### Ⅲ 課題点の再整理と今後の対応策

#### (2) 課題と対応策

課題点	活動組織での対応策	地域協議会の指導方針
<p>「組織内の人々の結び付き」を一層向上させるには</p>	<p>○各団体間の交流を一層促進させる ・活動を各々の団体任せにせず、団体の活動に役員や他団体メンバーの参加を企画する</p> <p>○各世代間の交流を一層促進する ・子供達が参加する活動を題材に、父母世代の参加を求め、そこに役員や農業者も一緒になって活動する</p> <p>○各種会合において、参加者同士が「率直に話し合える」状況づくりを心がける ・意見の出しやすい会合づくり 現地打合せ、図面、写真の活用</p> <p>○組織運営に女性、広報活動、課題共有など共通対応策で、できるものを実施する</p>	<p>○地域交流のためのイベントの企画案について、内容確認のうえ、柔軟な対応をする</p> <p>○研修会での啓発普及</p> <p>○中間指導時(第1回時)に活動が各団体任せとになっていないかチェックして指導する</p>

61

### Ⅲ 課題点の再整理と今後の対応策

#### (2) 課題と対応策

課題点	活動組織での対応策	地域協議会の指導方針
<p>「地域が自ら将来を描ける」ようにするには</p>	<p>○体制整備構想の成案作成に向け、組織内での話し合いを強化する ・地域で共有できる課題(比較的難しくないもの)を設定し、その話し合いを突破口に地域の将来像を語り合っていく ・いつもと違った話し合いの形態をとってみる →ワークショップや、役員と青年団、婦人会などの合同会合 など</p> <p>○地域の人々の結び付きを一層強化する</p> <p>○組織運営に女性、広報活動、課題共有など共通対応策で、できるものを実施する</p> <p>○「環境」農産物のPR活動を実施していく ・農産物を有利に販売する方策を探る</p>	<p>○提出のあった「体制整備構想」の中身を検討し、それを題材に、個々の組織に話し合いを促す</p> <p>○興味のある組織に対して、ワークショップ研修を企画する</p> <p>○共通対応策や「人々の結び付き」での指導に力を入れる</p> <p>○農産物の地域ブランドの立ち上げ方や先進的販売法などの事例を収集し、情報提供する</p>

62

## H22, H23 2カ年の展開方向

### 生産資源の保全

- 点検でなく機能診断をしっかりとやろう
- 施設修繕に力をいれよう
- 修繕にも地域みんなの力を借りよう

### 生態系や水質の向上

- 調査から具体的活動へアイデアをだそう、できるものからはじめよう
- ・ピオトープ兼浄化池
- ・ホテル等を題材にした活動
- ・濁水管理や刈草流出防止

### 環境保全型農業の推進

- 消費者に対してPR活動をやろう
- PR活動を通じて、販路を開拓しよう
- 付加価値の高い農産物の生産又は、加工についても検討しよう

### 効果的なアプローチ

- 地域で共有できる課題を見つけ重点活動しよう
- シンボリック活動を一つもとう
- 組織運営にもっと女性を参画させよう
- 活動成果をもっと広報しよう

活動をより一層  
充実させよう

### 人々の結び付きを強化しよう

- 活動を各々の団体任せにせず、たまには他の人が混ぜてやるようにしよう。
- 子供達と一緒に父母世代と活動しよう
- みんなが話をしやすい会合を心がけよう

地域の手で  
自分達の将来を  
描こう